全日本大学サッカー新人戦参加報告書

広島県サッカー協会
福山大学 近藤琢哉

1. はじめに

今回参加するにあたり推薦して頂きました、中国大学サッカー連盟審判部の皆様誠にありがとうございました。また、シーズン終盤に入り大事な試合が多くなるタイミングにも関わらず参加させていただいた中国サッカー協会、広島県サッカー協会の皆様には感謝申し上げます。

2. 新人戦について

今回参加させていただいた全日本大学サッカー新人戦は全国の地域予選を勝ち抜いた全 12 チームによるグループリーグ+トーナメント制の大会です。各チーム 1.2 年生のみが登録できる大会です。

3. 振り返り

今回の大会では、グループリーグから決勝戦まで担当させて頂きました。以下が担当試合になります。

グループリーグ 1 日目(11 月 25 日)
12 時 30 分 ko 新潟医療福祉大学(北信越)vs 札幌大学(北海道)副審
グループリーグ 2 日目(11 月 26 日)
12 時 30 分 ko 東海大学(関東)vs 新潟医療福祉大学(北信越)主審
グループリーグ 3 日目(11 月 27 日)
9 時 30 分 ko 慶應義塾大学(関東)vs 関西大学(関西) 第 4 の審判員
12 時 30 分 ko 高知大学(四国)vs 静岡産業大学(東海)副審
準決勝(11 月 28 日)
11 時 30 分 ko 産業能率大学(関東)vs 東海大学(関東)第 4 の審判員
決勝(11 月 29 日)
11 時 30 分 ko 九州産業大学(九州)vs 東海大学(関東)主審

私が今大会で個人的な目標としたこととして常に「適切な判定を納得感があるポジショニングで行う」という点です。今大会の期間中柳岡先生のポジショニングについての講義がありました。私は日頃から対角線式審判法を用いてポジショニングを取るように意識しているが、今回の研修を通して何故対角線式審判法をすることが大切なのかということについて学ぶことができた。対角線式審判法を用いることでボールとは関係のない部分での選手同士のやり合いを、監視することができ、尚且つ次の予測もしやすいという点で対角線式審判法を用いることが大切だと学んだ。、
私が主審を担当させて頂いた、グループリーグ 2 日目東海大学 vs 新潟医療福祉大学の試合では、東海大学の攻撃シーンで幅を取るポジショニングをしたからこそ、適切な判定を行えた部分があった。また、決勝の九州産業大学 vs 東海大学の試合では、幅を取ることでコーナーキックかゴールキックかの判定をすることができた。今回の研修を通して対角線式審判法を用いることの大切さを学ぶことができた。
また、大会期間中青山先生が仰られていた「サッカーは生き物」という言葉が心に残っている。私は 2 日目新潟医療福祉大学 vs 東海大学の試合において東海大学のベンチに異議による警告を提示した。しかし、サッカーは常に流れるスポーツそのプレーの「ストーリー」をコーチの方は聞きたかったのだが判定「だけ」伝え、結果的に警告になってしまった。しかし、この警告は防げる警告だったのではないかと感じた。「サッカーは生き物」こと言葉は私の審判員としてサッカーに関わる際に大切にしたい言葉である。

4. 最後に

今回の研修にてご指導頂いたインストラクターの皆様、日本サッカー協会よりご参加頂いた jfa 審判マネージャーの皆様、共に励まし合い時に、意見をぶつけあった学生審判員の皆様本当にありがとうございました。私自身今回の研修で掴んだ武器、課題として明確になった部分を今後の審判活動に活かしていきます。また、今後は地域を代表する審判員として活動していけるよう努力してまいります。今回は全日本大学サッカー新人戦に参加させていただき本当にありがとうございました。

©JUFA